

座間市「未来デザイン会議」結果報告書

回	開催日	テーマ
第1回	令和3年8月7日（土）	座間市の「今」から未来像を探る
第2回	令和3年8月29日（日）	10年後の座間市のワン・ワード（1 Word）を見つける

令和3年10月

第1回結果概要

テーマ：座間市の「今」から未来像を探る

1. 概要

(1) 目的

第五次座間市総合計画策定と市制施行50周年という本市の未来について考えることが多いこの機会に、市民が日頃から感じている本市への想いや、将来どのようなまちを望むか等について把握する。

(2) 開催日時

令和3年8月7日（土） / 14時～16時30分

(3) 開催場所

座間市役所 1階 市民ホール特設会場（座間市緑ヶ丘一丁目1番1号）

(4) 参加者

市内在住の16歳以上の方を対象に応募し、37人が参加

(5) 進め方

- ・「ワールドカフェ方式」を採用し、カフェのようなりラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、ラウンドごとに席替えをしながら全員の意見や知識を集める形式とした。
- ・会全体を統括するファシリテーターが1人加わり、活発かつ現実的な議論を促す。

2. 会議の流れ

(1) 事前説明

総合計画の説明や市民意識調査の結果について事務局から情報提供を行う。

(2) ラウンド1：アイスブレイク（10分）

対話の練習として、自己紹介または身の回りの進捗報告を行う。その後、テーブルごとに「店長」と呼ばれるそのテーブルでどのような会話が行われたのかを伝える役割を持つ人を1人決定する。

(3) ラウンド2：座間市の魅力、おもしろい点（10分）

「現在（課題）」の背景にある「過去（原因）」を探るため、参加者それぞれが持っている“過去の座間感”を自由に意見してもらい、まちの魅力を掘り出していく。

(4) ラウンド3：座間市の課題（10分）

“ここが良くなったらもっとおもしろい”と思う座間市のポイントを自由に意見し

3. 意見のまとめ

(1) 未来の提案と6つのテーマ整理

活力・にぎわい	子育て・教育	協働・ひと	都市空間・生活環境	公園・緑地・水	行政サービス
<ul style="list-style-type: none"> ● 古い街並みのある活気ある、商店街をつくる ● 子供が減になっている ● 市外→興味→定住→市内（市内の会社を使って市をよりよくするとりくみ。市内にお金をおとす。市で生まれて死ぬまで快適に過ごせる施設。補助など、雇用） ● 売り込み（ふるさと納税、ドラマロケ地など、補助） ● 地域発展のための活動への支援 ● 座間市の活性化 ● たくさんある魅力の発信 ● 座間駅から立野台へ行く坂道に小さな店（特殊な）を誘致する。例えば古着屋 ● 空家活用（教育の場に利用） ● 観光と商業の連携 ● イベント ● 外から見て魅力的な町（街）創り！！ ● 座間で街のきのうを持つ ● 相模台一四谷 ● 坂道を楽しく登れる様に整備したい ● 目に見えない価値 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供・子育て世代の呼びこみ ● シニア世代との助け合い ● 「郷土愛」…なりたち（歴史）分からずして、生まれない ● 「目で見える座間」という写真集をのり越えて、目で見ると体験する歴史教育をしてほしい。 ● 小学生の見学会、障害児童の見学会 ● シニア世代の学習施設 ● 「郷土愛」にアプローチできる日々の生活 ● 高齢者と若い人たちとの交流を図る仕組み（現在はそれぞれがそれぞれのカタマリになっている） ● 「子育てに最適な街 座間をめざす」「日本一」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決を導くリーダーの育成 ● 行政との対話不足→おくれ ● 共通認識 ● まずは価値観の共有 ● 共有できること（バランス） ● 住民のマンパワーを使ったマチのリフォーム ● コミュニケーションあふれる座間にイベントを役所と市民で造る。 ● 皆の向かう方向を定める ● 外から来た人の活用 ● すべての人に居場所を ● ボランティア活動でバックアップ（スマホ・PC教室／お助けグループ活動／zoom） ● 市民の声の反映（定期的なアンケート／予算計画に） ● イオンモールの活用（協働） ● 行政ばかりに頼らず「民力」を使って若い世代を引き込む ● 変革のために外部よりの力（人材及び鐘）の導入 ● 産・官・学⇔共助 ● 市民の考え ● 住民行政が協力する ● 実現のため産官学しくみ ● 行政と市民の協力で良い町を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 無電柱化 ● 歩道、自転車道路をひろくつくる ● 道路整備 ● 電柱をなくす無電柱化を図る。カラスが来なくなり、街の環境が変わる。共同墓地の入所代金をこれにあてる。今からスタートしないとできない ● 道路整備、駅前整備（座間駅） ● 交通ネットワークの充実 ● 道路の整備 ● 利便性 ● 交通の便の向上 小田急（住みやすい） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園の植木増 ● 川をきれいにしたい。 ● 自然と人との近い関係を保つ ● 緑がある、公園がある ● 環境保全（水、川、森、農地の保全／交通ネットワーク） ● ワサビ田の復活！←夏の冷たい水道水はありがたい！ ● 街路樹を植えて！🌳 ● 自然 ● 街路樹で木陰多い町 行政が実施、住民が維持 ● 緑の多い ● 自然を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 色々するにはお金がかかる！ ● 行政サービスの充実 ● PLAN→中長期（DO）→修正（CH'CK）→（ベンチマーク・マイルストーン） ● 座間市にある3か所の公園のひとつに共同墓地を立てる。座間市に住民票を置いたことのある人はどなたでも入れる。 ● 客観的な目をもつ ● 3R、SDGS ● 異常気象への対策をより強化 ● 町を安くするために自治会等の会入率の向上 ● 経済振興（ふるさと納税に参加／若い家族の受け入れ） ● 相模原市との連携 ● 福祉行政 ● 座間市はベッタウン構想で行く ● 今までと違うアプローチ ● 座間市の諸々の「おくれ」をもたらした原因が何であるかを徹底的に究明する ● 情報発信制度の確立 ● デジタル化の発展に伴う高齢者への教育制度の整備

(2) 問い・まちの将来像の提案

問い (mission)

- “住みやすいまちってどんな町？住みやすい町（まち）ってどんなまち？”
- 市外から市内の循環につなげるには？
- 100歳まで自宅で過ごせるための座間市のシステムはどう作るべきか
- 生活環境（地理的）の整備、支援システム、資金、教育などをどう連携させた方がよいのか
- 座間をもっと安全・安心で住み易い街にできないか？
- 座間の心を一つにする「合言葉」は？
- 愛着もてるコンテンツを知るには！
- 発展させるには？（自慢できるものがない）
- ” おくれの原因は何か”

まちの将来像 (vision)

活力・にぎわい	子育て・教育	協働・ひと	都市空間・生活環境	公園・緑地・水	行政サービス
<ul style="list-style-type: none"> ● 活気がある ● 座間市としての特色がある街にしたい！！ ● 「特色の有る」座間 ● 未来 工場誘致→大学誘致→かせげる町 ● 稼ぐ座間 ● 稼ぐマチ座間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い世代の住みやすい街（子育てサービス等） ● 子育てをしやすい座間 ● 「子育て」の座間 ● 「世代間助け合い」の座間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人のスピードによりそう街 ● 「人に寄りそう」座間 ● 「全員に居場所のある」座間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩き易い ● ゴミ「0」の座間 ● 「住み易い」座間 ● 「ゴミの無い」座間 ● 美しく住みやすい街座間 ● ノスタルジックな町 	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑がある→水がキレイなまち ● 自然の流れによりそう街 ● 「異常気象対応の」座間 ● 「緑がある」座間 ● 「公園」の座間 ● 「水のきれいな」座間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金が安い ● お金を生むまち ● それを宣言しアピールできる私の街 ● 「ふるさと納税」の座間 ● 「お金を生む」座間

第2回結果概要

テーマ：10年後の座間市のワン・ワード（1Word）を見つける

1. 開催概要

(1) 目的

第五次座間市総合計画策定と市制施行50周年という本市の未来について考えることが多いこの機会に、市民が日頃から感じている本市への想いや、将来どのようなまちを望むか等について把握する。

(2) 開催日時

令和3年8月29日（日） / 14時～16時

(3) 開催場所

座間市役所 1階 市民ホール特設会場（座間市緑ヶ丘一丁目1番1号）

(4) 参加者

市内在住の16歳以上の方を対象に応募し、29人が参加

(5) 進め方

- ・「ワールドカフェ方式」に加え「OST（Open Space Technology）方式」を採用し、少人数に分かれたテーブルで席替えをしながら全員の意見や知識を集めた後、事前に整理した6つのテーマごとに分かれてグループワークを行う形式とした。
- ・会全体を統括するファシリテーターが1人加わり、活発かつ現実的な議論を促す。
- ・第1回の結果を基に分類した6つのテーマは次のとおり。
活力・にぎわい / 子育て・教育 / 協働・ひと /
都市空間・生活環境 / 公園・緑地・水 / 行政サービス

2. 会議の流れ

(1) 第1回の振り返り（10分）

第1回未来デザイン会議の概要と結果を説明。参加者の意見のまとめと6つのテーマの考え方を共有する。

(2) アイスブレイク（10分×2ラウンド）

グループワークの内容を決定するため、「ワールドカフェ方式」で対話をしながら参加者同士で前回の振り返りと深掘りしたいテーマを選定する。6つのテーマの中に深掘りしたいものが無い場合には、代わりに議論したいテーマを決定する。

(3) グループワーク（40分）

各テーマを深掘りするため、「OST方式」により参加者がそれぞれ話したいテーマのテーブルに分かれ、グループワークを行う。席替えやグループの分離も自由に行いな

がら、各テーブルで「解決しなければならない課題」「課題の解決方法」「課題が解決された後の座間市の姿（ビジョン）」の3つの項目を明確にする。なお、参加者の提案により、6つのテーマに加え「財政」のグループを新たに設置した。

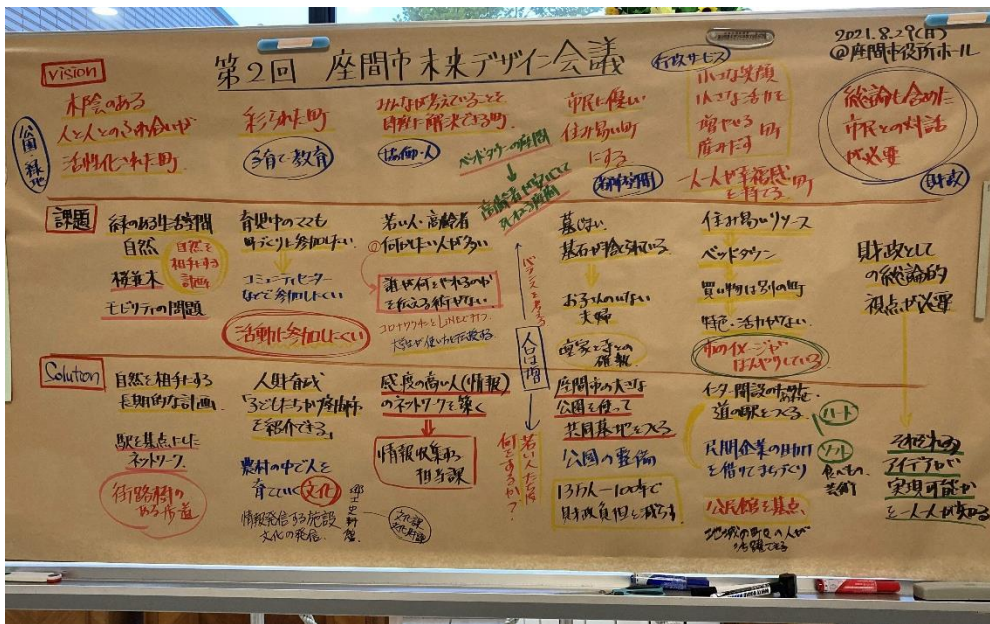
- 【例】
- ・解決しなければならない課題 → 道が暗い
 - ・課題の解決方法 → 電灯の設置
 - ・課題が解決された後の座間市の姿 → 犯罪の減少

(4) グループごとの発表 (30分)

各テーマで深掘りした3つの項目について、グループごとに発表する。

(5) キャッチフレーズの提案 (20分)

参加者1人につき1枚付箋を配布し、全体の発表を聞いた上で座間市の未来像を表すキャッチフレーズを提案する。



▲図2 ファシリテーターによる各テーマのまとめ

3. 意見のまとめ

(1) グループ発表まとめ

7グループの発表内容をもとに、各分野の将来像とその課題、解決策を整理。

7つの分野	座間市の将来像	課題	解決策
都市空間 生活環境	人と人とのふれ合いが活性化されたまち	・・・ 緑のある生活空間や自然との共生を実現するためには時間がかかる。	→ 街路樹のある歩道を増やしていき、住民も一緒に育てていく仕組みをつくる。
		・・・ 自然に対する長期的な管理・計画が不足しており、老木が切り倒される一方となっている。	
		・・・ 人々が活動できる豊かな生活空間をつくっていくことが必要。	
子育て 教育 文化	彩られたまち	・・・ 育児中のママもまちづくりに参加したいと考えているが、活動の場がない。	→ 歴史的な系譜を踏まえた文化を切り口にして情報発信していく、郷土資料館や学芸員などの仕組みをつくる。
		・・・ 市民が同じベクトルを向くために、共有できる文化が必要。	
		・・・ 意外な発見や驚きがある歴史や文化を知らない人が多い。	→ 文化課・文化財課のような窓口を作り、市民から情報発信を要請する。
		・・・ 座間市に愛着を持ってもらう活動を導く必要がある。	→ かつて市民の中にあった「農村の中で人を育てていく」という文化を取り戻し、座間市の力となる子どもたちを育てていく。
協働 人	みんなが考えていることを即座に解決できるまち	・・・ 若い人や高齢者を含め何か行動したい人は多いが、手の挙げ方やその手を受け止めてくれるシステムが分からない。	→ 情報感度の高い人のネットワークを築いておき、市民意向を伝える術を確保する。また、それをフレキシブルに受け止められる市の受け皿を設ける。
		・・・ インターネットやSNSによる行政窓口の使い方が分からない人がいる。	→ 大学生が使い方を伝授するといった、市民みんなの役に立つ活動を実現する。
		・・・ 市外からでも市民間のコミュニケーションが目に見える方法がない。	→ ホームページなどに意見を発信する場を設け、その内容を広報や回覧板で分かりやすく共有する。
公園 緑地	生涯安心して暮らせる座間	・・・ ベッドタウンとして高齢者が定年後も住み続けられる要素が必要。	→ 水や緑などの自然環境や、便利な生活環境を充実させる。
		・・・ まちに若い人も入ってきている中でどのようなサービスを提供するか。	
行政 サービス	市民に優しい住みやすいまち	・・・ 寺院との確執や子どものいない家庭の増加により、墓じまいが増えている。 思いやりのある座間での暮らしの実現。	→ 市内の大きな公園を使って共同墓地を整備し、市民が集う場所としても機能させる。人口13万人分を100年かけて、財政負担を減らしていく。
活力 にぎわい	小さな笑顔や小さな活力を産み出すまち	・・・ 市のイメージがぼんやりしており、核となるものがない。	→ 民間企業の助けを借りてまちづくりを実践していく。
	一人一人が幸福感を持てるまち	・・・ 住みやすいまちだが、大きな魅力や特色、活力がない。	→ 圏央道のスマートインターチェンジ開設に合わせた道の駅などをつくり、観光を通じて食べ物や芸術の魅力をまちの外へも発信していく。 → コミュニティセンターや公民館を拠点として、市民同士が助け合う場、楽しく活動ができる場をつくる。
		・・・ 他のまちに買い物や遊びに行ってしまう人が多い。	→ ベッドタウンとして住みやすいリソースをつくる。
財政	サステイナブルな協働のあるまち	・・・ 財政としての総論的視点が必要。	→ 行財政の状況を理解し、それぞれのアイデアが実現可能かを市民一人一人が知る。
		・・・ 総論も含めた市民との対話が必要。	→ 市民参画の場を増やしていく。

(2) キャッチフレーズ結果まとめ

参加者から集めた意見からキャッチフレーズを抽出し、6つの分野に再整理。

活力・にぎわい	子育て・教育	協働・ひと	都市空間・生活環境	公園・緑地・水	行政サービス
<ul style="list-style-type: none"> ● 小さな笑顔をふやす活力を生む街『座間』 ● 高齢者と若者との協生 ● ユリカゴからハカバまでの座間 ● ひとりひとりが自分の街と実感できる街 ● 自分の街はこんな良いとココがあると言える街 ● 自分が生きる、ホームベースである街 ● 身近な結びつきから活力あふれる町へ ● 「ベッドタウンの街」から「若い人・老人にやさしい街」に魅力転換 ● 緑とにぎわい豊かな文化都市 ● 受けたバトンをきちんと渡す持続可能なまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい座間 ● 子育てから老後までのしく安全に住める座間 ● 文化に彩られた街 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間との協働で街づくり ● ”虹”・・・ひとりひとりが思いやり、愛の心を持ち、ひととひととの懸け橋になる!! ● 議題を深掘りして解決策を提示するワーキンググループ ● 市民の力を活用した、助け合うしくみ ● 市民が主体的にまちを作る、座間を愛する人がもっと増える「みんなで参加するまち」 ● 人創りの座間(人を創る座間) ● 行政が旗振り役となり促す、有効的な市民活動 ● 具体的に動き出せるボランティアグループ ● 人々が協働で動けるシステム造り ● 手を上げやすく、上げた手に反応のあるあたたかい気持ちのあるまち ● 若者には10年先の実現可能な夢を持ってもらえる町へ ● みんなで作ろう(創ろう)座間市の運営 ● 小さな声もくみ上げる、生活に根づいた意見交換 ● 共生できる人間関係 ● 行政と市民で考えるポスト「日産」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通アクセスやバリアフリー ● 前向きにつくろう座間の生活 	<ul style="list-style-type: none"> ● 斜面地や湧水が保全された水の街 ● 緑の中を空気が流れる街 ● 街路樹のきれいな街(サクラ並木のある町) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若いファミリーに目を向ける行政 ● 隣接の都市と連携した行政サービス(大和市、相模原市...) ● 共同墓地による収入と市民生活への還元 ● 夢ではなく、実現可能な住みやすい町(街)創り